資　料　提　供	
平成２３年１１月２日	
担当 （担当者）	水産試験場 （志村・倉長）
電話	０８５９－４５－４５００

平成２３年漁期　ズワイガニ漁の見通し

解禁直後（鳥取沖・隠岐北西沖・出雲沖）
松葉がに、若松葉…小～中型個体を主体に前年を上回る。
親がに（雌）…前年並み。
漁期全般：漁獲量は前年並みとなる可能性がある。

解禁直後の見通しの根拠となった情報

第一鳥取丸による調査結果　10月3日～27日にかけて、水深179m～425mの海域において、合計26点で着底トロールによる漁期前調査を行いました（図1）。調査海域内において漁獲対象となるズワイガニの推定資源量（単位＝万尾）は表1のようになりました。

表1　調査海域におけるズワイガニの資源量（単位＝万尾）

区分	2008年	2009年	2010年	2011年	前年比
松葉がに（甲幅9.5cm以上）	4	11	12	26	217%
若松葉（甲幅10.5cm以上）	166	152	179	261	146%
親がに（くろこ）	191	184	275	272	99%

松葉がに：隠岐北西沖を中心に前年より増加しましたが（表1、図2左）、大型個体は少なく甲幅11～12cm台の小～中型個体が主体となりました（図3）。
若松葉：隠岐北西沖を中心に前年より増加しましたが（図2中央）、甲幅10～11cm台の小型個体が主体となりました（図3）。
親がに：出雲沖で減少しましたが隠岐北西沖で増加したため全体では前年並みとなり（図2右）、甲幅7～8cm台の小～中型個体が主体となりました（図3）。

漁期全般の見通しの根拠となった情報

（１）**鳥取県の沖合底びき漁業による漁獲量の推移（図4）**　親がには概ね700トン前後で安定して漁獲されています。松葉がに（2007年377トン→2010年238トン）と若松葉（2004年345トン→2010年172トン）は近年減少傾向にあります。

（２）**水研調査（調査月：5-6月）：**　（独）水産総合研究センターは、A海域（富山県以西）における平成23年のズワイガニ資源重量について平成22年よりやや少なく推定しています。（ホームページより平成22年度資源調査票（詳細版）を参照 http://abchan.job.affrc.go.jp/digests22/index.html）。

まとめ　第一鳥取丸の調査結果から小中型個体が主体の漁獲となることが予想されます。さらに、長期的な漁獲量の変動と広域の試験調査結果を考慮すると大幅な資源回復は期待できないことから、漁期全般の漁獲量（重量換算値）は前年並み程度に留まる可能性があります。

その他の情報：10cm前後のオスや6～7cm台のメスが多く（図3）、資源回復のためにこれら未成体ガニが多量に入網する海域での操業自粛や再放流が重要です。

ホームページ　本報告は水産試験場ホームページに掲載しています。トップページの「調査研究」からアクセスできます。http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=101110

図１　試験操業位置（図中黒丸が操業位置）

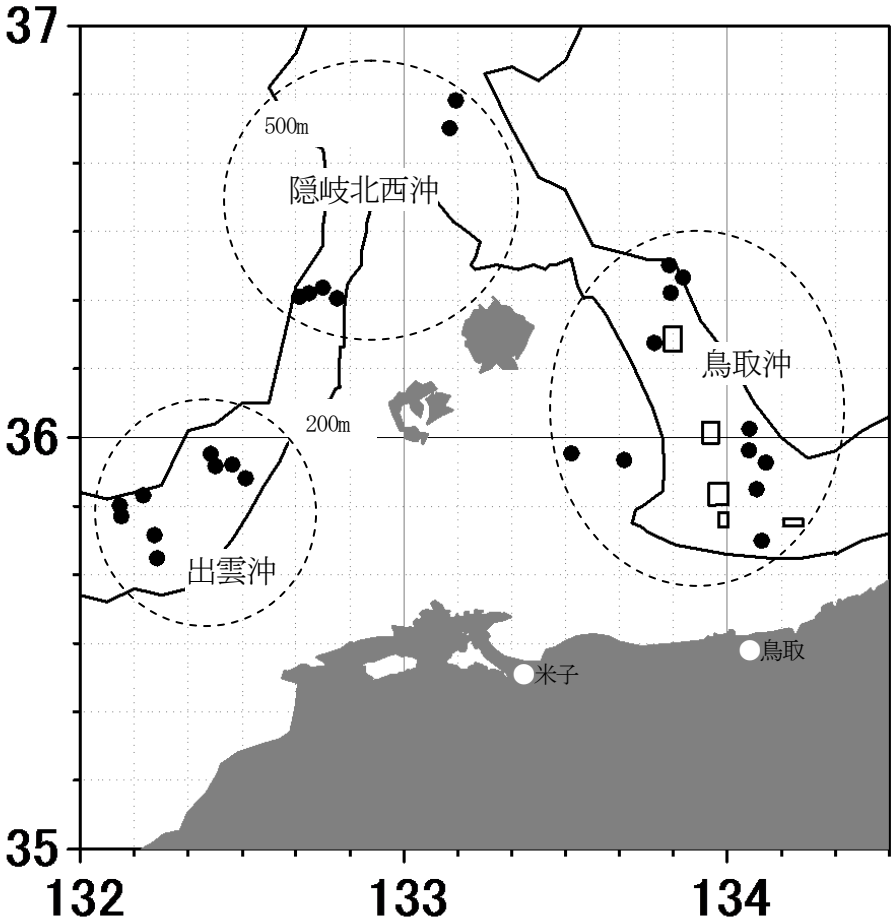

図２　年別海域別の資源量

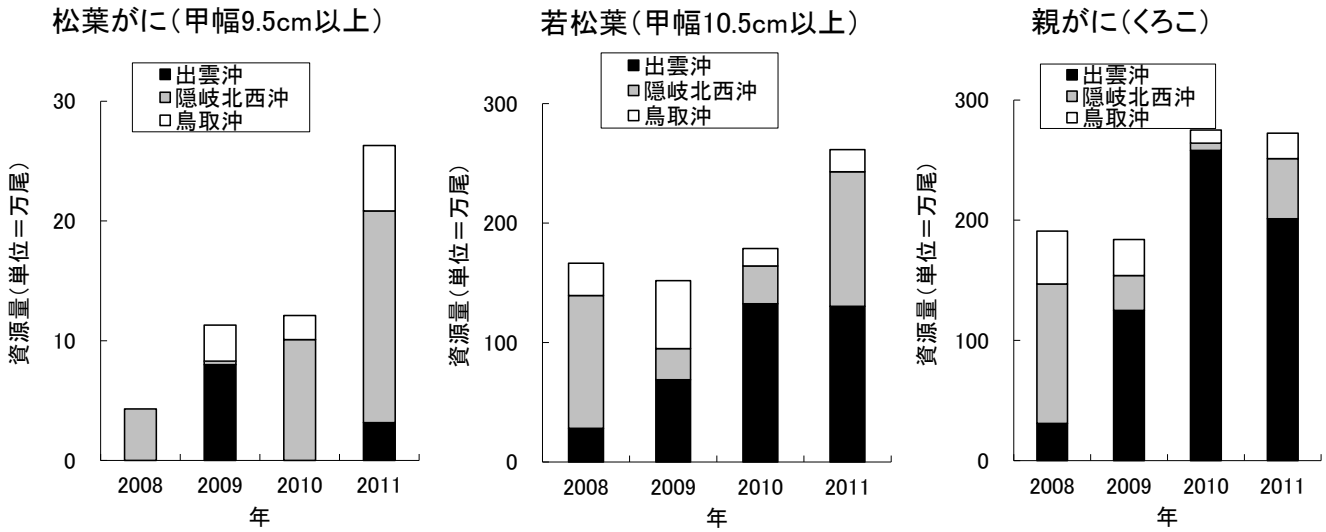

図３　トロール網による調査海域全域におけるズワイガニ甲幅組成の推移（2008-2011 年）
資源量の単位は万尾

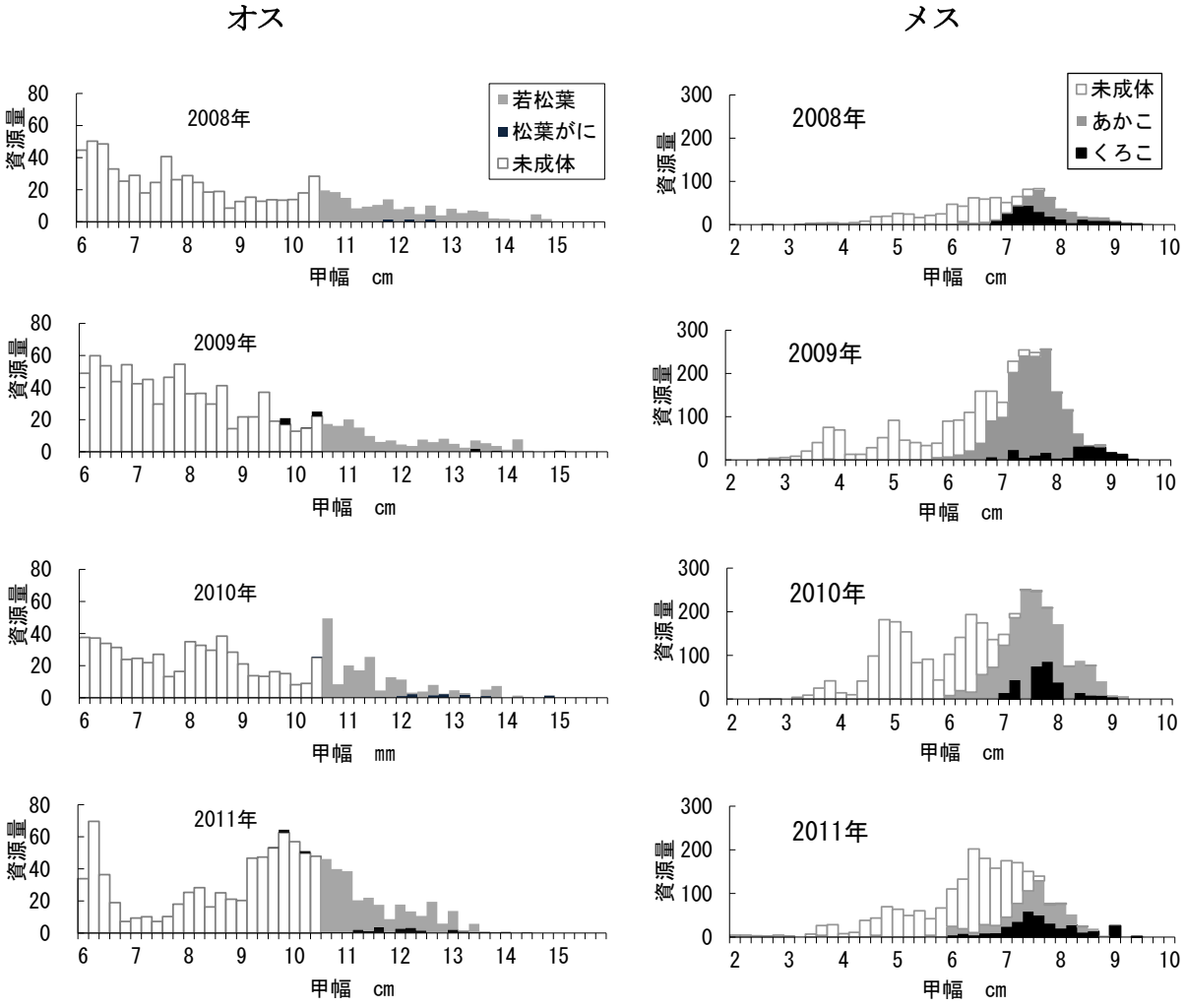
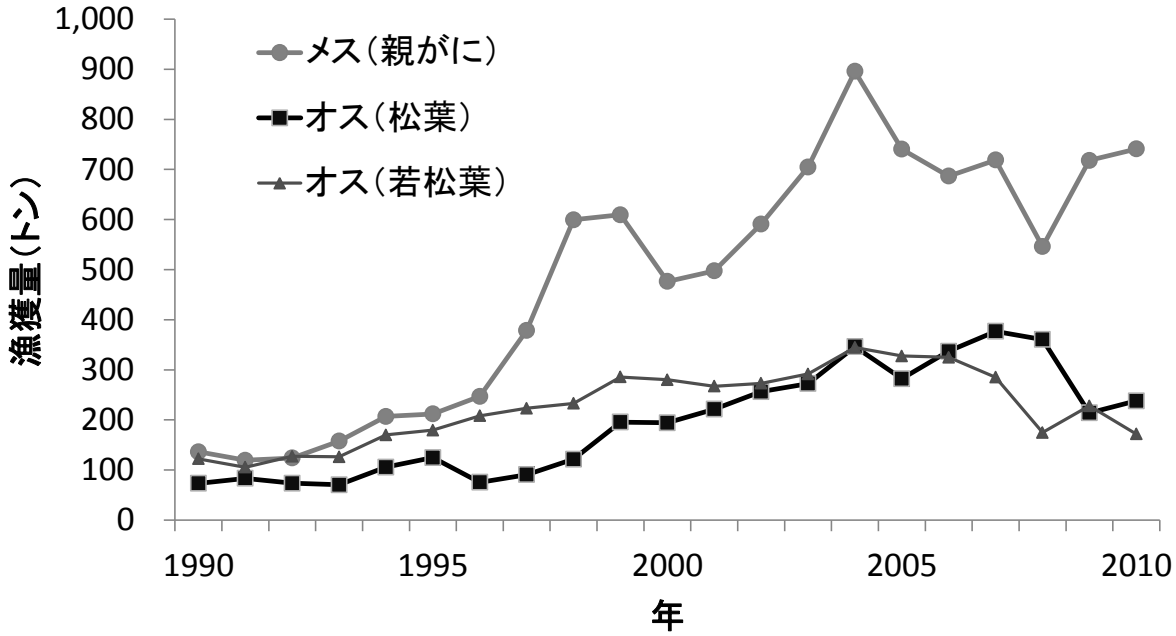
図４　鳥取県におけるズワイガニの漁獲量（漁期年）